

「第 20 回石井進記念棚田学会賞」を受賞

ドン会 33 年へのご褒美・今後の活動への激励！

2024 年 8 月 24 日（土）午後、「第 20 回石井進記念棚田学会賞」の授賞式が早稲田大学早稲田キャンパス 3 号館で行われ、NPO 法人自然塾丹沢ドン会が受賞の榮譽に浴しました。授賞式には、可児理事長と片桐前理事長の二人が出席しました。



「丹沢自然塾」の仕組みを生かした棚田の保全活動が評価される

「棚田学会賞」選考委員長の堀口健治早稲田大学名誉教授による講評は以下のとおりです。

都市近郊の市街化調整区域の白地の農地の棚田を 2002 年以来復田し、「丹沢自然塾」の仕組みを創設して都会と農村をむすび担い手を育成・確保。活動を 20 年以上にわたり継続し、次の世代につなげるパワーを秘めながら活発化している。

復田した棚田のみならず、周囲の里山を含めた生物多様性の再生保全に取り組んでいる。2017 年から 3 年かけて「名古屋の自然総合調査」を実施、植物 252 種、動物 586 種、合計 838 種を確認。その成果を「丹沢山ろく名古屋 棚田の生き物図鑑」として刊行した。

名古屋の棚田を核としつつ、里山全体をとらえながら、都市型の棚田管理の先鞭をつけた一連の活動は「棚田学会賞」としてふさわしい。



片桐前理事長が名古屋の棚田での活動を報告

その後、山路永司棚田学会会長（東京大学名誉教授）より表彰状と盾の贈呈、学会賞選考委員などの関係者との記念撮影があり、さらに「棚田学会賞」受賞者講演「大都市圏での自然の保全を基調とし、住民交流を通じた棚田復田～名古屋の棚田～」と題して、片桐前理事長がドン会の活動報告を 10 分ほど行いました。

授賞式の後には、2024 年度 棚田学会大会シンポジウム「産学と連携・協働する農的資源の保全・管理」が開催されました。基調講演・事例報告・総合討論は、会場とリモートのハイブリッド開催です。全国各地の事例報告では、地域に根差したさまざまなアイデアと工夫があり、情報交流の大切さを学びました。これからのドン会の活動に生かしたいものです。夕方から会場を移して開催された交流会では、懇談・情報交換を多くの参加者で行うことができ有益でした。

受賞はドン会活動 33 年へのご褒美

「棚田学会賞」の受賞は、ドン会活動 33 年へのご褒美であると同時に、これからの活動継続・普及啓発への期待の表れです。叱咤激励を肝に銘じて棚田の再生保全・米づくり活動に取り組んでいきたいものです。これまで支えていただいたすべての方々に感謝です。ありがとうございました。

石井進記念棚田学会賞とは
棚田学会は、初代会長石井進氏の遺徳を偲び、学会創設の理念を永く継続するために、棚田の保全活動、調査研究、著作等を通じて棚田の保全に資する顕著な業績をあげた個人または団体を対象に「棚田学会賞」を授与している。

棚田学会とは
棚田に関する研究および棚田の保全に向けた活動を推進することを目的とした学会

